

スパーク衣笠 防犯マニュアル

1. 目的

子どもと職員の安全を第一に守り、いざという時にパニックにならず行動する。

2. 日常の防犯・空間管理

① 見通しの確保

- 玄関までの動線で背の高いもの・目隠しになるような物品を置かない。
- 常に職員全員が玄関ふくめ全体を視野に入れて療育・作業する。

② トイレ移動時の安全管理

- トイレへ行く際は、担当職員が必ず同行する。
- 出発時に「〇〇ちゃん、トイレ行きます」と声を出して移動し、他の職員にも出入りを認知させる。

③ 玄関からの飛び出し防止

療育の入れ替わりのタイミングで子どもが飛び出すことがまれにあるので、以下に留意する。

- 終了時はなるべく子どもをクールダウンさせる。興奮した状態で外に飛び出さない ようにする。
- 保護者が子どもの入室および退室を待っている際に玄関ドアを開けっ放しにしていることがあるので、保護者は玄関の外もしくは中で待っていてもらうようにしてドアは閉めてもらう。難しい場合は職員が一人ドアの外に立ち、待ちかまえる。

3. 不審者侵入時の対応

基本的な対応は以下の通り。

【対応の基本】

不審者を見つける

↓

合図で周囲に知らせる

↓

子どもを不審者から遠ざける

↓

対応可能な職員が110番通報

① 知らせる

- 不審者を発見した職員は、周囲の職員に聞こえるよう、大きな声で異常を知らせる。
(あらかじめ職員間で決めた合図を使う)
- 不審者に対して、必要以上に近づいたり、問い詰めたり、取り押さえようとしたりしない。

② 子どもを不審者から遠ざける

- 担当職員を中心に子どもを不審者から遠ざける。

③ 110番通報

異常を知らせる声を聞いた職員のうち、対応可能な職員が直ちに110番通報する。

④ 不審者から距離をとりつつ子どもが安心できる声かけをする。

4. 児童の「飛び出し・無断外出」への対応

1. 第一発見者のコールと追跡
 - 発見した職員は「〇〇ちゃん外へ出ました！」と叫び、即座に自ら追跡する。
2. 残された現場の対応
 - 残った職員は、他の子が追隨して外に出ないようにする
3. 搜索と通報
 - 追跡した職員が外で見失った場合、近隣の道路・駐車場を優先して搜索する。
 - 見失った場合は、直ちに110番通報および保護者へ連絡する。

※本マニュアルは、必要に応じて見直し・改定を行う。